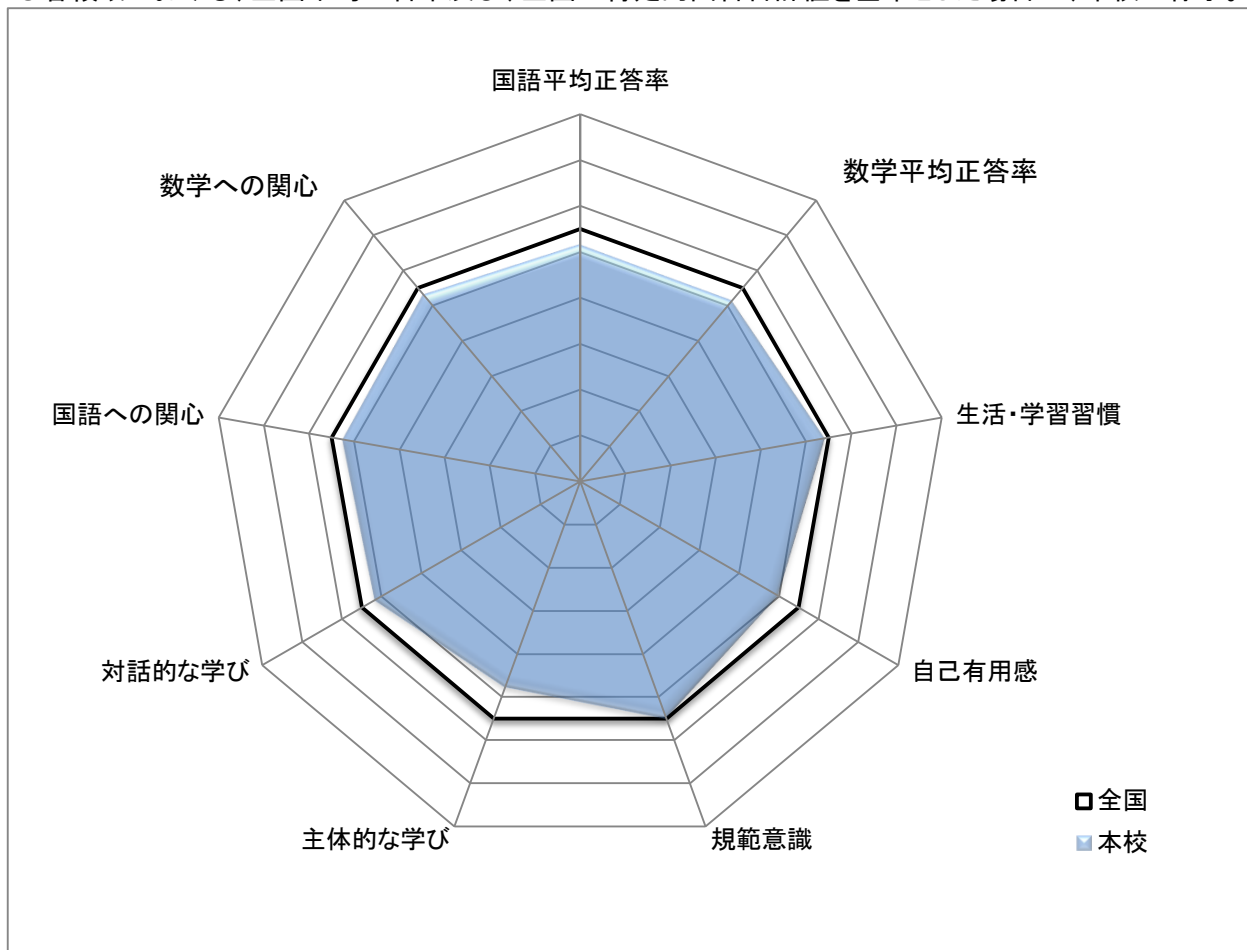


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

規範意識と生活・学習習慣の肯定的解答率は全国と同程度であるが、自己有用感は全国水準に比べて低く、特に将来の夢や目標を持っていると回答した生徒が少ない。主体的・対話的な学びでは学級での話し合い活動に肯定的な回答をした生徒が少ない。  
 国語では質問の意図を的確に捉える力はあるが、伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書くことに課題がある。  
 数学では無回答率が東京都・全国に比べて高い傾向があり、諦めずに問題に挑戦することに課題がある。

《授業改善のポイント》

国語科では、「読む能力」に課題があるため、文章中の語句の意味を正確に捉えさせるとともに、文脈から推測させる力をつける。また、情景描写や接続詞、指示語に着目して読ませる。ただ内容理解して終わるのではなく、読み取ったことを基に、自分の考えを深める活動を行うことで、主体的に文章を読み深められるように改善していく。  
 数学科では、「記述する力」に課題がある。無解答の割合も相対的に高いため、粘り強く解答する姿勢を培っていく必要がある。そのためにも、授業の中で話し合いながら考えを深める機会を多く取り入れていきたい。また、立式するにあたっての思考過程を丁寧に説明することを心掛けていきたい。

《チャートの特徴》

国語は関心・平均正答率ともに全国平均を下回っている。問題の区分では「話す・聞く能力」は比較的高く、「読む能力」に課題がある。  
 数学は関心・平均正答率ともに全国平均を下回っている。問題の区分では「数学的な技能」の問題は比較的正答率が高く、「数学的な見方や考え方」の問題に課題がある。  
 規範意識と生活・学習習慣は肯定的解答率が全国の水準とほぼ同じである。自己有用感と主体的な学びは肯定的解答率が全国の水準に比べて低い。

《家庭・地域への働きかけ》

家庭学習の習慣をつけるとともに、一人一人が自分の課題を把握し、適切な課題に取り組むことができるように、家庭学習ノートやタブレット学習を活用していく。